

## 編集後記

▼時代が多様化するに従って、現宗研の活動も多岐に渡るようになる。刻々と移り変わる社会の種々相を追いかけていると、本来の自分を忘れて、心は虚ろになっている。パリ・ダカールラリーの放映で、ダカール夢、ダカール狂気……と映し出されていた。二十二日間、一万三千里の夢と狂気、ひたすら何かを追い求めて疾走する人間、生きている証し……

▼キリスト教伝道を扱った「ミッシヨン」という映画が上映された。アルゼンチン、パラグアイでの歴史的事実をもとに制作されている。現地人を教化する伝道僧と、国家権力と、その間に挟まれた教団の相剋を画いている。教団が、その存続の為に現地のキリスト教徒を見捨てる中で、伝道僧は現地の側に立って戦う。伝道僧は、神の代弁者である教団でなく、現地の人々への愛を選択して戦死する。何の為の、誰への愛、信？

▼御題目総弘通運動も四年目を迎えた。あちらこちらから様々な声が聞こえて来る。ふと考える、自分は何をやってきたのか、真底から人を愛することができるのか……弘通とはどういうことなのか……

▼何の為の、誰の為の信仰なのか、解決済みだと考えていた疑問が、次々と頭を過る。新宗教の問題も、自分の信仰を改めて問い直すことになった。

▼二十二号は新宗教に関する報告が多くなった。その旺盛な布教と生き方から学ぶことは多い。

▼寺院問題は、過疎寺院調査を総括して上梓する予定であり、教団論も別冊の形でまとめたとおもっている。

▼ご講演いただいた諸先生、ご執筆賜わった諸師に御礼申しあげる。

(赤堀記)

